

答辞

冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じる今日この頃、私たち人文学部英語英米文化学科、ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科の学生は四年間在籍した武蔵大学を卒業する日を迎えました。依然として新型コロナウイルスが猛威を振るう中、何度も協議を重ね、万全の対策を施した上で、卒業式を開催してくださったことにつきまして、卒業生一同厚くお礼申し上げます。また、ご臨席賜りました学長をはじめ、ライブ配信にて式典を見守ってくださる教職員の方々、保護者の皆様に感謝申し上げます。

四年前、私達はこの大講堂で入学式に出席し、武蔵大学の一員となりました。これから始まる大学生活に胸を躍らせていた学生もいれば、新しい環境に対して不安な気持ちに苛まれていた学生もいたでしょう。私の場合は後者でした。勉強は苦手で入学試験の成績もしくはない、将来やりたいことも見つからない。入学式の日の私は、これから始まる大学生活に不安な気持ちでいっぱいでした。そんな私が、こうして卒業生代表として選出され、充実した大学生活を送ることができたのは、紛れもなく、武蔵大学という恵まれた環境、そしてここで出会った人達のおかげです。

一年次、ヨーロッパ文化学科ではドイツ語かフランス語の必修の授業が毎日あり、二年次になると第二外国語としてイタリア語などを履修しました。当時はあまりの授業の多さに「私達は文化学科ではなく、語学学科に所属しているのか」と嘆いたものでした。しかし、ネイティブの先生とドイツ語で会話を出来た時、イタリア旅行でイタリア語が通じた時、文化を学ぶために外国語の文献を読む時、語学を学んだ二年間は決して無駄ではなかったのだと再認識することができました。また、講義では高校までの授業とは異なり、より専門的な知識を得ることができました。時には授業終わりに教授に質問をし、二時間以上話し込んだこともありました。勉強が苦手だった私ですが、様々な講義を受け、自ら調べ、探求したことにより、知的好奇心が育まれ、気がつけば勉学を苦には感じなくなっていました。

三年生に進級すると、ゼミナールに複数所属することとなりました。前期には二つ、後期には三つ。まさに、「ゼミの武蔵」を実感するカリキュラムでした。語学、ゼミナールの発表の準備、講義への出席、就職活動のためのインターンシップへの参加、サークル活動、アルバイト。忙しい日々でしたが、所属する学科の専門的な授業を受け、他学部の授業も履修でき、充実した一年間を過ごしました。

そして迎えた四年生。大学生活の締めくくりとして、卒業論文に取り組み、部活動やサークル活動も最高学年として後輩を先導していく年でした。そして、友人達との最後のキャン

パスライフを送るはずでした。しかし、私達のキャンパスライフは新型コロナウイルスによって失われました。授業は原則オンラインとなり、自宅で黙々とパソコンに向かう日々。近所の小学生や中学生が学校に通い、会社員が出勤する姿を家の中から眺め、「何故私達大学生だけが学校に通うことが出来ないのか」と、涙を流すこともありました。また、就職活動も思うようにいかず、人文学部の学生が志望することの多い、航空系、旅行系の企業は今年度の採用が中止となりました。将来の見通しが立たず、失望と孤独の中、心の支えとなってくれたのは、大学の友人達と、教職員の方々でした。対面では会うことができなくとも、オンラインで就職活動の相談や面接練習をしてくださったキャリア支援センターの職員様、図書館が閉館となった中でも卒業論文に必要な文献の郵送をしてくださった図書館の職員様、Zoomやメールで何度も卒業論文の添削をしてくださった指導教授をはじめとする先生方、そしていつも励ましてくれた友人達にどれほど心が救われたことでしょう。

新型コロナウイルスによって、私達の一年は激変しました。普通に大学に通い、友人とたわいもない話をし、笑い合いながら食事を摂った日常がどれほど貴重なものであったのかを実感すると共に、このような状況下になっても支えてくださる方々がいることが、どれほど幸せなのかを身に染みて感じることができました。私達は「普通の大学四年生」としての日々を過ごすことはできませんでした。そして、この先、生きていても、大学四年生をやり返すことはできません。しかし、この一年は決して無駄な期間ではありません。先程も申し上げました通り、この状況になったからこそ、その気づきや学びが、各々あったことかと思えます。そして、コロナ禍での就職活動や卒業論文の執筆を乗り越えた力は、今後一生、私達の糧となるはずです。もちろん、この一年だけではありません。武蔵大学で過ごし、得ることが出来た知識、経験、友人達は今後生きる上でのかけがえのない財産です。

卒業生の皆様、武蔵大学で過ごした四年間はいかがだったでしょうか。今一度、四年間を振り返ってみてください。楽しかったこと、辛かったこと、様々な場面が脳裏に浮かぶでしょう。そして、その場面には自分の周りに沢山の人がいたはずです。友人、教授、先輩、後輩、家族…。私達の四年間は沢山の人と関り、支えられて成り立っています。これまで見守り、支えてくれた家族、就職活動や教務など多方面で大学生活を支えてくださった職員の方々、ゼミナールや卒業論文など、学生ひとりひとりに丁寧かつ熱心なご指導をしてくださりました先生方、部活動やサークル活動で苦楽を共にした先輩・後輩の皆様、そしてまで共に学び、笑い合い、成長してきた同級生の学友の皆様。在学中に関わってくくださった全ての方々へ感謝申し上げます。

最後に、武蔵大学の一層の発展を願うとともに、皆様の健康、ご多幸を祈念し、答辞とさせていただきます。

令和三年三月二十二日

武蔵大学第六十九回 卒業生代表
人文学部ヨーロッパ文化学科 寺田有花